

万田坑が世界遺産に登録されて

「万田坑が世界遺産に登録されたとき、とても感動しました。まさか自分が働いていた場所が陽の目を見る日が来るなんて。当時は生活のためにがむしゃらに働いていました。けれど、ようやく最近になって、炭鉱が日本の発展を支え、私たちの仕事が人様のお役に立てたと思えるようになったんです」と涙ぐむのは、定年退職まで30年間、機械を担当する技術職員として働いた慶田修さんです。

炭鉱をたくましく生き抜く

地下数百mの坑道での石炭運搬設備の点検や坑内にたまった水を排水するためのポンプの点検などが慶田さんの主な仕事でした。「人体に有害なガスが発生することもあったので、坑内にいるときは、常にガス検知機やガスマスクを持っていました。坑内を歩くだけでも、とても怖かったです。私の仕事がいい加減だと、機械の不調で事



万田坑ガイド 慶田修さん（川北）

炭鉱で生きた男の物語

30年以上炭鉱に勤め、現在、万田坑ガイドを始めて12年目になる慶田さんに炭鉱でのことや世界遺産に登録されて思うことについてお話を伺いました。

故を引き起こしてしまってもあります。毎日、とても大きなプレッシャーを感じながら、仕事をしていました。

慶田さんは三川坑勤務でしたが、機械の点検のため、万田坑をはじめ、三池エリアのさまざまな炭坑に出入りしていました。そのため、炭鉱のことやそこで働いていた人たちのことを誰よりも近くで見られました。

「とても大変な職場でしたが、給料などの待遇が良かったこともあり、家族のためにみんな一生懸命働きました。炭鉱で働く人たちがその家族は炭鉱住宅に住み、共同の浴場を利用したり、みんなで運動会や盆踊りをしたりと、とても仲良しでした。炭鉱で生きる人たちは固い絆で結ばれていました」。

炭鉱の悲しい歴史

60年代に入ると、エネルギーの主流が石炭から石油へと変わり、全国の炭坑は次々と閉山していきました。1960（昭和35）年、三池争議が勃発。一緒に働いていた仲間たちがいがみ合う悲しい結末になってしまいました。

た。1963（昭和38）年には三川炭じん爆発事故が発生。458人の尊い命が失われました。「辛い出来事が相次ぎ、炭鉱を辞めようと思ったことが何度もありました。けれど、あの悲しい歴史を経て、今の日本の発展があるんです」。

元炭鉱マンとしてガイドとして今、思うこと

12年前から慶田さんは万田坑で観光客などにガイドを行っています。「ガイドをしていく中で、万田坑の歴史を再認識し、万田坑で働いてい



写真提供：高木尚雄さん

▲三池エリアの坑内で石炭を運搬する列車。昭和40年代

たことを誇りに思うようになりました。本当は万田坑が世界遺産に登録されたら、ガイドを勇退するつもりでした。しかし、まだまだ炭鉱の歴史を次の世代へ橋渡ししていきたいので、現役でガイドを頑張りたいなと思います。万田坑はガイドの説明があつてこそ。荒尾市民の皆さんにも万田坑に足を運んでいただき、ガイドの説明に耳を傾け、炭鉱のことやそこで生きた人たちのことを知ってほしいですね。万田坑には整備次第で、公開できる場所がいくつもあります。いつか皆さんにガイドできたらと思います」。

世界遺産のあるまちに住む私たちができることについて観光協会会長の山代さんにお話を伺いました。

一人一人が自分たちのまちの未来を考えて行動を

万田坑が世界遺産に登録されました。登録後1カ月の来場者数は1万人ほどと前年同期のおよそ5倍です。観光のまちとして、これから荒尾はますます真価が問われるようになります。荒尾にはラムサール湿地に登録された荒尾干潟もあり、世界基準のまちと言えます。有明海や小岱山などの自然にも恵まれ、とても住みよい所です。万田坑はもちろん、その他の荒尾のさまざまな魅力を多くの人に感じてほしいですね。

そのためには、私たち一人一人が自分たちのまちがどうなっていくかをしっかりと考え、行動することが大切なのではないでしょうか。そして、自分の世代でできることを精一杯行い、子や孫の世代につなげていかなければならないと思います。

まずは、まちにごみが落ちていたら、拾ったり、目的地までの道案内を行ったりと、できる範囲で「いらん世話」をして、たくさんのお客さんをお迎えしませんか。万田坑の世界遺産登録を機に荒尾全体が元気になるようにみんなで盛り上がり上げていきたいと思います。

INTERVIEW



荒尾市観光協会会長 山代秀徳さん（西原町）

石炭ゴロゴロ万田焼の認定店を追加募集します

- 要件 ①～④を満たす店
- ①具材に荒尾産の食材を1品以上使用
- ②具材を石炭に見立てて、ゴロゴロ感を演出
- ③荒尾市内での販売
- ④炭鉱の街・荒尾とお好み焼きなどについて理解し、PRできること
- 申込締切 9月18日(金)
- 申込方法 商工会議所にある「販売協力店申込書」に必要事項を記入し、郵送かメールか商工会議所へ持参
- ※申込書は商工会議所ホームページからもダウンロードできます。
- 〒荒尾ご当地グルメ研究会事務局（商工会議所内）
(〒864-0054 大正町1-4-5)
☎62-1211
Eメール：mail@arao-cci.or.jp

フェイスブック世界遺産登録記念企画「わたしの世界遺産ツアー」

世界遺産やまちを楽しむ様子の写真を募集します。作品は市公式フェイスブックで紹介し、「いいね!」を多く獲得した人に荒尾の特産品をプレゼントします。

- 作品要件
- 【必須】万田坑で撮影した写真、観光日記(320文字以内)
- 【任意】荒尾・大牟田・宇城市内で訪れた施設や飲食店、レジャーなどを楽しむ写真
- 申込締切 9月30日(火)
- 申込方法 ①タイトル②写真の説明(撮影場所・思い入れなど)③日記④撮影者(ニックネーム可)⑤住所・氏名・電話番号を記入し、郵送かメールか秘書広報課へ持参
- 〒秘書広報課戦略広報室
(〒864-8686 宮内出目390)
☎63-1157
Eメール：web@city.arao.lg.jp

万田坑キッズガイドになりませんか

- 日時 10月13日(火) 午前10時～午後3時
10月14日(水) 午前10時～正午
- 場所 万田坑、万田炭鉱館
- 内容 万田坑の現地見学や歴史講座
- 対象 万田坑に興味がある市内の小学5～6年生
- 定員 20人
- 申込締切 9月18日(金)
- 申込方法 産業振興課にある申込用紙を産業振興課へ提出
- ※申込用紙は市ホームページからもダウンロードできます。
- 〒産業振興課観光推進室 ☎63-1421